# DOBOKU × カルチャー

人のために豊かさや便利さを提供する土木を、生活のなかに浸透させていくこと。「DOBOKU×カルチャー」では、私たちと土木の距離を縮めてくれる、そんなコンテンツを紹介します。

第十回

# NHK『解体キングダム』

第2回目放送、大阪の解体現場。ビルの屋上に重機を持ち込み、上階から解体していく。©NHK

建物や構造物が密集する都市部で新たに何かを建設しようとすると、必ず何かを〝解体〟してからということになる。解体業も、建設土木の一端を担っているのだ。

建築物の解体をテーマにしたバラエティ番組、NHK総合テレビの「解体キングダム」が話題になっている。

建設土木関係者は、解体という一見裏方的な仕事が大々的にクローズアップされていることに驚き、一般視聴者は、その仕事の実態や最先端技術などに、意外性やダイナミックな魅力を感じ、見入ったようだ。

番組には、重機マニアで移動式クレーン運転士の免許も持つタレント・城島茂が司会を、〝解体キング〟として番組を盛り上げるお笑いタレントの澤部佑ほか、デヴィ夫人、伊野尾慧など、今をときめく売れっ子芸能人が出演。

番組チーフ・プロデューサーの杉浦大悟さんは、日本の建物解体現場の特殊性に目をつけて番組化に乗り出した。

「日本では、人口密集地にビルが建っているうえ、耐震性のある丈夫な建物ばかり。バブル期に建ったものなど、特殊な形でデザイン性の高い建物も多い。今まであった建物がある日、白いシートで覆われて、気が付くとそこがすっかり更地になっている。あの白い覆いのなかで一体何が行なわれているんだろうと思ったのが、この企画の始まりです」

番組で取材した建物は、建設当時最新の工法で建てられた大阪のオフィス街の築40年のビル、新潟の築160年の古民家、高さ150メートルの煙突がある目黒の清掃工場と、それぞれの事例に合った解体方法と技術が必要とされるものばかりだ。

今回お話を伺った杉浦大悟さん（右）と百崎雅子さん（左）

「そもそも私たち建設現場を知らない者からすれば、ビルの屋上にどうやって重機を乗せるのかもわからない。プロの方たちが当たり前だと思っていることを〝すごい〟と感じるわけです。どの解体現場でもたいてい新技術が取り入れられていて、それを見るのも新鮮かつ驚きです」（杉浦さん）

そして、その驚きをフレッシュに視聴者に伝えるのは、現場をリポートし、スタジオでそれを見て反応するタレントたち。

「タレントさんが登場することで、解体というテーマに女性やファミリー層に興味を持ってもらうことができた

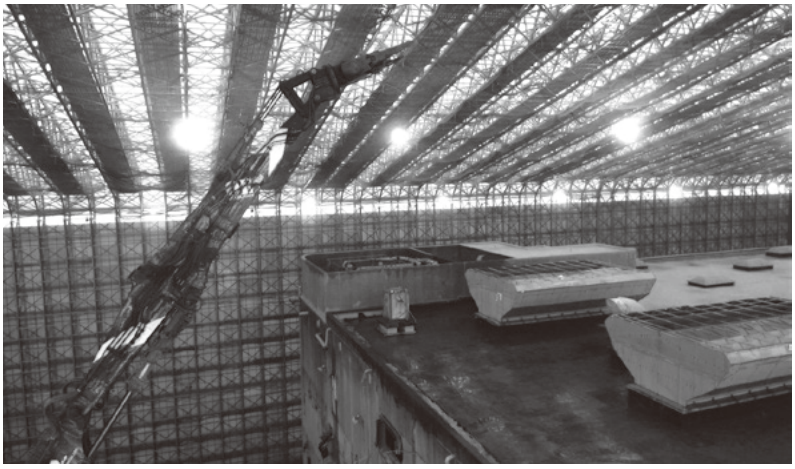
◆ライター ●鈴木伸子 ■日々東京を徘徊中、執筆中。雑誌「東京人」の元副編集長、得意分野は都市、建築、鉄道、食べ歩きなど。

と思うんです」と、杉浦氏とともに番組制作にあたったNHK制作局の百崎雅子さんは語る。

特に司会の城島茂は、重機を愛し、解体現場への興味も並々成らぬレベル。番組の途中に発する「解体とは、油圧に始まり油圧に終わる」「解体とは、輪廻転生の物語」といったキメ台詞「解体ロマン」は、すべて自身で考えたフレーズだという。「城島さんは、おっしゃることがすべて〝玄人はだし〟」と制作の二人も手放しで絶賛する。

解体現場を訪ねるリポーターは、伊野尾慧と、お笑いタレントの田中卓志という大学で建築を専門に学んだコンビや、ケンドー・コバヤシなど現場で働いた経験のあるタレントが担当。彼らのコメントやリポートが、視聴者の解体への関心のレベルを徐々に上げていく。

巨大重機による解体映像も番組の呼び物。写真は第２回目放送、横浜での現場風景。©NHK



第４回目放送、目黒区の清掃工場では、建物がまるごと覆われ、その内部で、アームの長さ39mという重機で解体が行なわれた。©NHK

そんな撮影現場での熱さの一方、この番組で一番苦労しているのは、取材する解体現場を見つけてくることだという。

「解体が始まってから取材交渉をしていたら、撮影する時にはすでに工事が終わってしまう。建設業界の新聞やSNSなどで情報を探して、交渉するんですが、現場のOKが出ても、解体の依頼主の企業の許可が出なかったことも。タレントさんのスケジュールと、一番見せ場となる工程が合わないということもあるなど、毎回いろいろと大変です」（杉浦さん）

それぞれの現場での解体場面には「ファイヤー木こり作戦」「忍法ムササビの術」など、それって何だろうという作戦名が付けられ、解体の最新技術、職人技、最新重機などが紹介されていく。

最近の解体現場の特徴、傾向としては、振動や騒音にも配慮し、近隣を歩く人にも気づかれないまま、いつの間にか建物がなくなっているという例も多い。

「番組を通してわかってきたことですが、解体とは、次に造られる建物へバトンを渡す役割でもあるんです」（百崎さん）。

今まで、新築工事に注目が集まることは多かったが、解体にスポットが当たることはほとんどなかった。「解体とは、設計図なき闘い」とも、番組中で司会・城島は語る。

今まで計４回制作放送された番組はいずれも大好評だったという。「解体」という仕事に対しての〝哲学〟までを語っているようなこの番組、レギュラー化を期待したい。

### 「解体キングダム」放送履歴

**【第１回】**
「いざ！解体現場の世界へ」
初回放送：2018年5月1日

**【第２回】**
「超難関！大阪オフィスビルを解体せよ」
初回放送：2018年12月20日

**【第３回】**
「超難関！大阪オフィスビルを解体せよ」
初回放送：2019年2月2日

**【第４回】**
「都心の巨大工場VS.モンスター重機」
初回放送：2019年3月27日